

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- - 平成 1 7 年 6 月調査結果 - -

(平成 1 7 年 6 月 3 0 日)

調査期間：平成 1 7 年 6 月 1 7 日～ 2 3 日

調査対象：全国の 4 0 3 商工会議所が 2 5 7 9 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 3 7 8 製造業 6 2 4 卸売業 2 3 2
小売業 7 3 8 サービス業 6 0 7

調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算 : (好転) - (悪化) 売上 : (増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 3 6
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ(<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成17年6月調査結果のポイント】

業況DIは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大し、不透明感続く

6月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（30.9）よりマイナス幅が2.3ポイント拡大して33.2となり、2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

業種別の業況DIは、小売を除く4業種でマイナス幅が拡大したため、全産業合計の業況DIのマイナス幅も拡大した。業況は好調との声は引き続き多いものの、依然として公共事業の縮小や消費の低迷、原油・素材価格の高騰などによる景況の停滞感を訴える声が寄せられている。

【建設業】では、「公共工事の発注件数は昨年より減少しているが、民間企業の設備投資は若干増加傾向に転じた感がある」（一般工事）「増・改築工事が増加」（建築工事）との声がある一方、「厳しい財政状況から国や県による新規発注はほとんどなく、民間工事も低調であることから、売上、資金繰りは依然として厳しい」（一般工事）「全体的に工事量が減少しているのに加え、資材価格が上昇しており、厳しい状況」（建築工事）といった声が寄せられている。

【製造業】では、「建設機械や工作機械などは好調を維持しており、高水準の操業を続けている」（金属加工機械製造）「3月期決算はバブル期以上の好業績となり、前期に比べ、売上高、利益ともに増加している」（通信機械器具製造）との声がある一方、「原材料価格の上昇が採算面に影響を与え始めている」（水産食料品製造）、「受注競争激化のため、材料費増加分の受注価格への上乗せは困難」（他金属製品製造）「仕入コスト上昇で小規模メーカーは部品調達が難しくなり、生産継続も困難な状況」（楽器製造）といった声が寄せられている。

【卸売業】では、「業況、資金繰りともに好転している気配」（衣服・日用品卸売）との声がある一方、「旅館、ホテル業の不振の影響を受け、売掛金の回収がずれ込んでいる」（食料・飲料卸売）「価格低迷や消費の伸び悩みに加え、大手スーパー進出、産直品の増加により、売上は前年同月を下回って推移している」（農畜産水産物卸）といった声が寄せられている。

【小売業】では、「5月から6月にかけて気温が上昇し、衣替えが順調に進んだことが、わずかではあるが売り上げ増に貢献」（その他の小売）との声がある一方、「郊外に大型店が進出し、商店街の人通りがさらに減少するのではと心配している」（商店街）「紳士衣料の不振に加え、売上単価の低下傾向に歯止めがかからない」（百貨店）といった声が寄せられている。

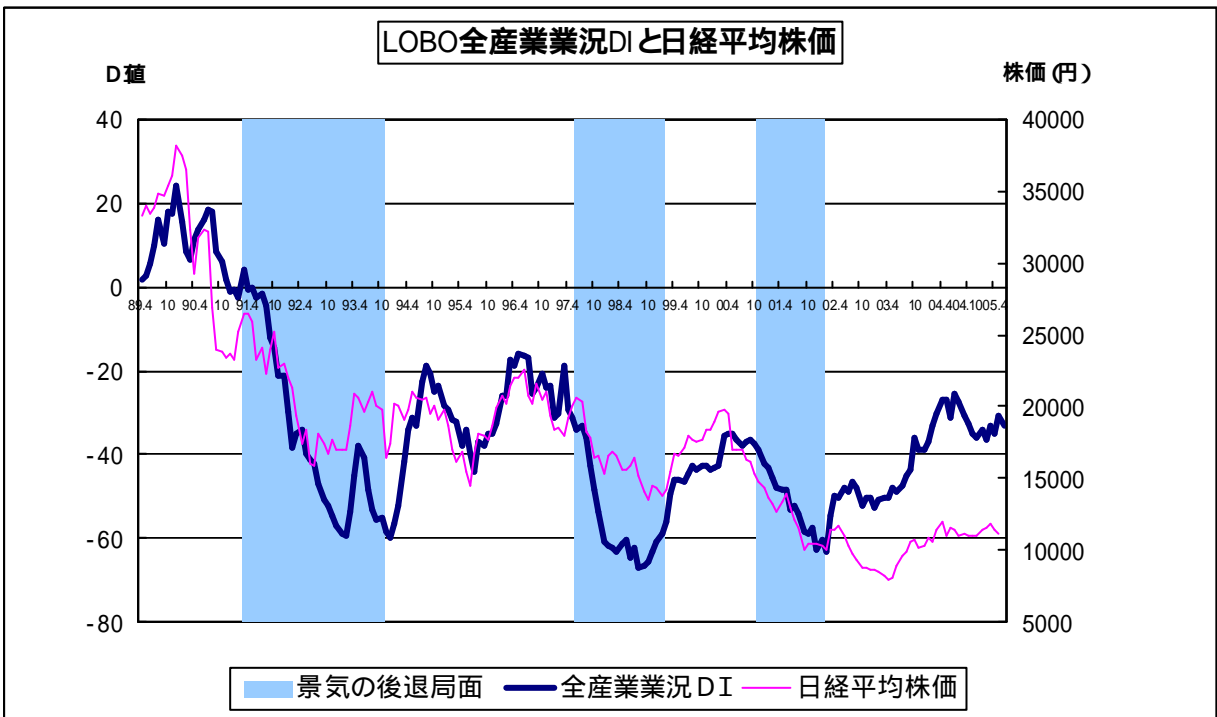
【サービス業】では、「6月中旬までは例年に比べ良くなかったが、月末にはボーナス支給の影響で少し客足が戻った」（すし店）、「今年は天候に恵まれたうえ、「愛・地球博」等のビッグイベントの影響もあり、上昇傾向にある」（食堂・レストラン）との声がある一方、「宿泊・宴会予約の激減により売上・採算ともに悪化しており、先行きも不安が大きい」（旅館）「依然として原油価格の高騰が運輸業界に大きな悪影響をもたらしており、運賃への転嫁もできないまま、採算面の悪化はさらに進んでいる」（運送業）といった声が寄せられている。

売上面では、D I 値のマイナス幅は建設、卸売、サービスで拡大したが、製造、小売で縮小したため、全産業合計の売上D I は 0 . 5 ポイント縮小して 2 8 . 1 となり、2 カ月連続で縮小した。

採算面では、D I 値のマイナス幅は小売を除く 4 業種で拡大したため、全産業合計の採算D I は 2 . 7 ポイント拡大して 3 3 . 5 となり、2 カ月ぶりに拡大した。

向こう 3 カ月(7 月～ 9 月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I (今月比ベース) が 2 8 . 1 と、昨年同時期の先行き見通し(2 3 . 8) に比べて悪化している。

景気に関する声、当面する問題としては、引き続き業況は好調との声があるものの、公共事業の縮小や消費の低迷、原油・素材価格の高騰などによる景況の停滞感を訴える声が寄せられている。



【業況についての判断】

6月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（30.9）よりマイナス幅が2.3ポイント拡大して33.2となり、2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

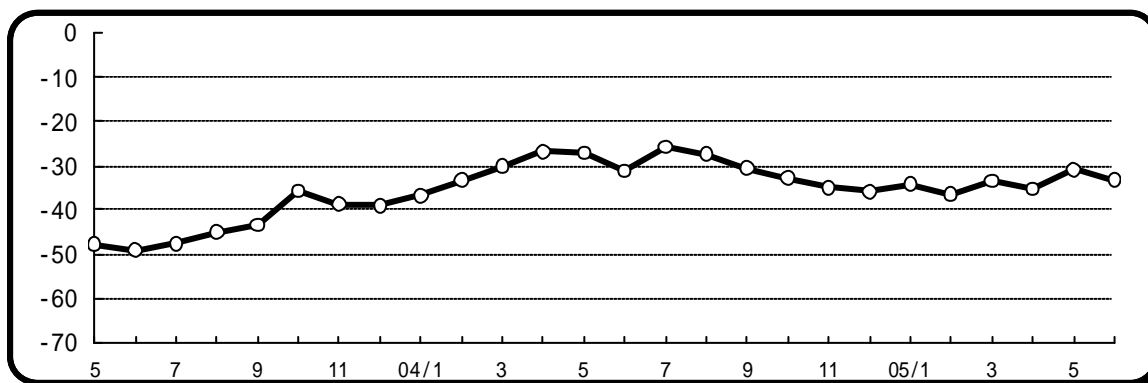
向こう3カ月（7月～9月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が28.1と、昨年同時期の先行き見通し（23.8）に比べて悪化している。

業況DI（前年同月比）の推移

	17年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7～9月
全産業	34.2	36.5	33.4	35.3	30.9	33.2	28.1 (23.8)
建設	48.2	47.2	42.9	46.0	42.2	44.7	40.4 (40.3)
製造	21.8	23.4	24.0	24.6	23.8	23.9	18.3 (19.9)
卸売	34.7	43.8	36.1	39.6	37.7	40.2	30.2 (14.7)
小売	37.2	40.5	34.0	37.8	31.0	30.8	28.7 (25.5)
サービス	34.8	36.0	35.5	35.1	28.7	35.2	28.2 (18.4)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI
()内は昨年6月の先行き見通しDI <以下同じ>

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

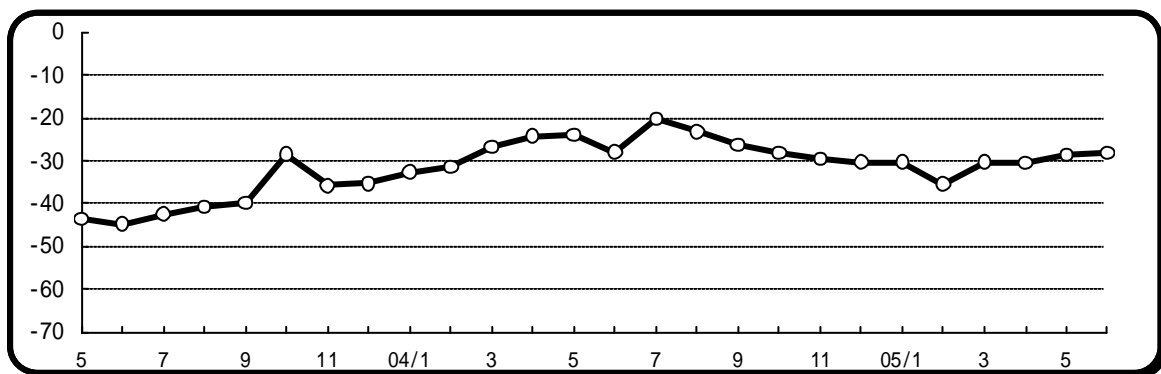
売上面では、D I 値のマイナス幅は建設、卸売、サービスで拡大したが、製造、小売で縮小したため、全産業合計の売上D I は0.5ポイント縮小して 28.1 となり、2ヵ月連続で縮小した。

向こう3ヵ月(7月～9月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I (今月比ベース)が 20.9と、昨年同時期の先行き見通し(19.1)に比べて悪化している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	17年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7～9月
全産業	30.3	35.5	30.4	30.5	28.6	28.1	20.9 (19.1)
建設	44.4	48.5	40.0	39.8	39.6	40.1	29.5 (37.2)
製造	12.6	20.3	10.0	13.2	13.7	10.3	10.8 (12.1)
卸売	31.7	45.0	36.7	38.4	38.4	39.9	22.8 (10.4)
小売	39.1	41.0	39.5	37.5	30.4	29.2	25.7 (20.3)
サービス	29.2	32.9	32.0	31.7	31.5	32.8	18.9 (16.5)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

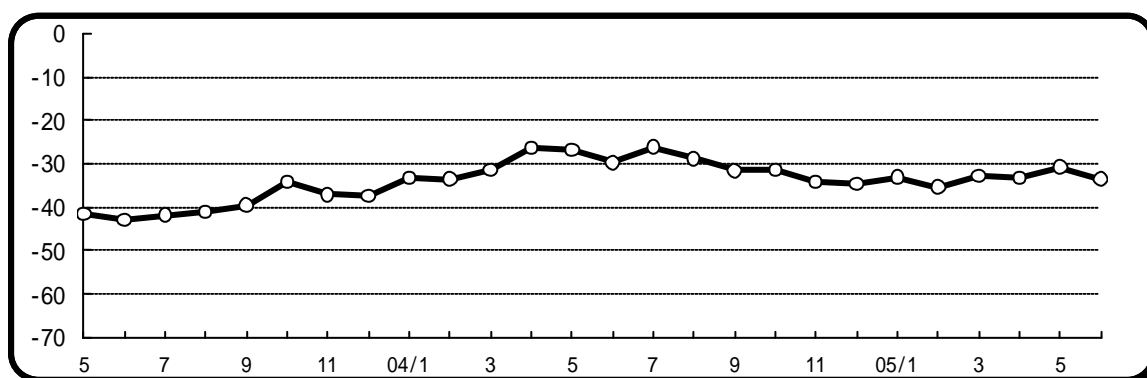
採算面では、D I 値のマイナス幅は小売を除く 4 業種で拡大したため、全産業合計の採算 D I は 2 . 7 ポイント拡大して 33 . 5 となり、2 カ月ぶりに拡大した。

向こう 3 カ月(7 月～ 9 月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算 D I (今月比ベース)が 25 . 1 と、昨年同時期の先行き見通し(22 . 9)に比べて悪化している。

採算 D I (前年同月比)の推移

	17年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7～9月
全産業	33.2	35.4	32.9	33.3	30.8	33.5	25.1 (22.9)
建設	49.1	52.0	49.5	50.0	44.4	50.0	39.4 (44.2)
製造	25.9	29.4	24.7	27.1	25.2	27.1	21.4 (19.9)
卸売	27.1	32.5	24.7	30.5	30.2	32.9	19.8 (11.0)
小売	34.7	32.4	31.8	32.4	27.7	27.1	22.6 (19.9)
サービス	31.4	35.5	35.0	31.7	32.0	36.9	24.3 (19.9)

《採算 D I (全産業・前年同月比)の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	17年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7~9月
全産業	24.2	24.5	25.0	23.6	21.8	22.4	19.4 (19.7)
建設	41.5	40.0	39.4	39.7	39.2	37.8	34.6 (36.6)
製造	20.9	18.5	19.7	20.0	16.8	16.8	12.7 (16.5)
卸売	17.8	23.5	21.3	19.9	17.7	16.5	12.8 (13.6)
小売	19.0	21.7	23.3	19.7	18.4	18.1	17.8 (15.4)
サービス	23.8	23.5	23.6	22.4	20.3	24.4	20.6 (19.1)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】製造で横ばい、建設、卸売、小売で悪化超感が弱まったものの、サービスで強まり、全産業合計でも3ヶ月ぶりに強まる。

【先行き見通しD I】小売、サービスで昨年同時期に比べ悪化超感が強まったものの、他の3業種では弱まり、全産業合計でも若干弱まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	17年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7~9月
全産業	19.1	16.9	16.6	19.3	19.6	16.9	14.7 (14.1)
建設	24.0	21.0	25.3	26.4	32.0	25.5	21.8 (25.4)
製造	38.4	32.6	35.8	36.9	34.6	31.8	27.2 (22.2)
卸売	17.4	12.6	12.7	14.6	19.0	14.6	19.1 (13.6)
小売	3.6	5.3	1.0	5.6	5.9	3.9	4.6 (2.4)
サービス	13.9	13.1	10.8	14.2	12.5	12.1	7.2 (12.1)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全業種で上昇超感が弱まったため、全産業合計でも3か月ぶりに弱まる。

【先行き見通しD I】建設、サービスで昨年同時期に比べ上昇超感が弱まったものの、他の3業種で強まったため、全産業合計でも強まる見通し。

従業員 D I (前年同月比) の推移

	17年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7~9月
全産業	6.6	6.7	6.6	6.8	5.0	5.2	6.2 (8.4)
建設	23.9	26.2	23.0	22.9	23.1	19.9	17.9 (23.1)
製造	5.0	7.3	7.7	8.3	5.3	4.3	5.4 (7.8)
卸売	6.6	8.1	8.2	9.8	8.8	12.8	10.9 (9.0)
小売	1.2	0.6	1.4	0.6	2.2	3.6	1.3 (3.9)
サービス	3.4	1.0	3.3	2.5	0.2	3.9	2.9 (3.6)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比 D I】建設、製造、小売で過剰超感が弱まったものの、他の 2 業種で強まったため、全産業合計でも 2 カ月ぶりに若干強まる。

【先行き見通し D I】卸売を除く 4 業種で過剰超感が弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。

【平成17年6月の景気キーワード】

悪化への懸念

各業種から、引き続き業況の悪化と先行きへの懸念を訴える声が寄せられている。建設、製造からは、「官民発注の激減により、中小零細企業の体力も限界に近い」(檀原・一般工事)「対前年比で今年6月は特に悪く、先行きの見通しも立たない」(酒田・織物外衣製造)「依然として業況が回復しておらず厳しい状況が続き、従業員も過剰状態」(赤穂・金属加工機械)との指摘が寄せられている。また、卸売、小売、サービスからも、「5月の半ばから全般的に低調で推移している」(柏・各種商品卸売)「来客数はやや増加しているものの、財布の紐は固く客単価は低い」(銚子・商店街)「5月以降、衣料品に回復の兆しが見られたものの、6月に入り消費に陰りが見られる」(豊橋・百貨店)「宴会などの引き合いはあるものの、売上単価の下落など大変厳しい状況」(檀原・旅館)といった声が寄せられている。また、「原油高のため材料費が値上がりしている」(鎌倉・塗装工事)「石油価格の上昇に伴い、包装資材コストも上昇している」(龍野・他の食料品製造)「燃料価格が高止まりのまま推移している一方、コスト上昇分を運賃に転嫁できない状況が続いている」(川口・運送業)と、原油価格高騰に伴う仕入コストの上昇を訴えるコメントも寄せられている。

回復への動き

一方で、各業種から、業況は好調との声が寄せられており、「平成17年度に入り、学校や公共施設などの耐震工事が発注されている」(静岡・一般工事)「ゆかた帯の出荷が好調」(桐生・織物製造)「業況に大きな変化は見られないので、現在の好調さを維持するだろうと見ている」(大府・工業用プラスチック製造)「堅調ではないものの、荷動きが少しずつ良くなっている。」(福島・農畜産水産物卸)「繊維関係では、衣替えなどの要因により荷動きが活発になった」(前橋・衣服・日用品卸)といった声が寄せられている。また、「夏物衣料、UV関連商品を中心に売上が好調で、今後、さらなる需要の拡大が期待される」(水戸・百貨店)「梅雨入り後も天候に恵まれ、季節商品・ファッション衣料ともに好調」(静岡・百貨店)との声や、「大きな変化は見られないが、旅行マインドは上がりつつあると感じる」(福島・旅館)「個人客の動きが活発である」(四日市・旅館)と、売上の好調や先行きに期待する声も寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年	月	景気キーワード		
17年	4月	悪化への懸念	回復への動き	
	5月	悪化への懸念	回復への動き	
	6月	悪化への懸念	回復への動き	

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況・採算D Iは2カ月ぶり、売上D Iは4カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「公共工事の発注件数は昨年より減少しているが、民間企業の設備投資は若干増加傾向に転じた感がある」(一般工事)「増・改築工事が増加」(建築工事)との声がある一方、「厳しい財政状況から国や県による新規発注はほとんどなく、民間工事も低調であることから、売上、資金繰りは依然として厳しい」(一般工事)「公共・民間工事ともに減少し、大変厳しい状況が続いている」(建築工事)「全体的に工事量が減少しているのに加え、資材価格が上昇しており、厳しい状況」(建築工事)といった声が寄せられている。
製 造	業況・採算D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大し、売上D Iは3か月ぶりに縮小した。「建設機械や工作機械などは好調を維持しており、高水準の操業を続けている」(金属加工機械製造)「3月期決算はバブル期以上の好業績となり、前期に比べ、売上高、利益ともに増加している」(通信機械器具製造)「全体的に受注、売上ともに安定している」(自動車・付属品製造)との声がある一方、「原材料価格の上昇が採算面に影響を与え始めている」(水産食料品製造)、「受注競争激化のため、材料費増加分の受注価格への上乗せは困難」(他金属製品製造)「仕入コスト上昇で小規模メーカーは部品調達が難しくなり、生産継続も困難な状況」といった声が寄せられている。
卸 売	業況・採算・売上D Iとも2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「業況、資金繰りともに好転している気配」(衣服・日用品卸売)との声がある一方、「旅館、ホテル業の不振の影響を受け、売掛金の回収がずれ込んでいる」(食料・飲料卸売)「価格低迷や消費の伸び悩みに加え、大手スーパー進出、産直品の増加により、売上は前年同月を下回って推移している」(農畜産水産物卸)といった声が寄せられている。
小 売	業況・採算D Iで2カ月連続、売上D Iは4カ月連続でマイナス幅が縮小した。「5月から6月にかけて気温が上昇し、衣替えが順調に進んだことが、わずかではあるが売り上げ増に貢献」(その他の小売)「大型連休の反動で売上減を予想していたところ、天候に恵まれ、夏物商品を中心に比較的好調」(百貨店)との声がある一方、「依然として低い水準での横ばい状態が続いている」(商店街)「紳士衣料の不振に加え、売上単価の低下傾向に歯止めがかからない」(百貨店)といった声が寄せられている。
サービス	業況、売上D Iは4カ月ぶり、採算D Iは2カ月連続でマイナス幅が拡大した。「6月中旬までは例年に比べ良くなかったが、月末にはボーナス支給の影響で少し客足が戻った」(すし店)、「今年は天候に恵まれたうえ、「愛・地球博」等のビッグイベントの影響もあり、上昇傾向にある」(食堂・レストラン)との声がある一方、「宿泊・宴会予約の激減により売上・採算ともに悪化しており、先行きも不安が大きい」(旅館)「依然として原油価格の高騰が運輸業界に大きな悪影響をもたらしており、運賃への転嫁もできないまま、採算面の悪化はさらに進んでいる」(運送業)「売上低迷のうえ、原油高騰の影響による仕入コスト上昇が採算を圧迫している」(自動車整備)といった声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、北海道、東北、近畿、中国でマイナス幅が縮小したが、他の5ブロックで拡大したため、全ブロック合計でも2カ月ぶりに拡大した。

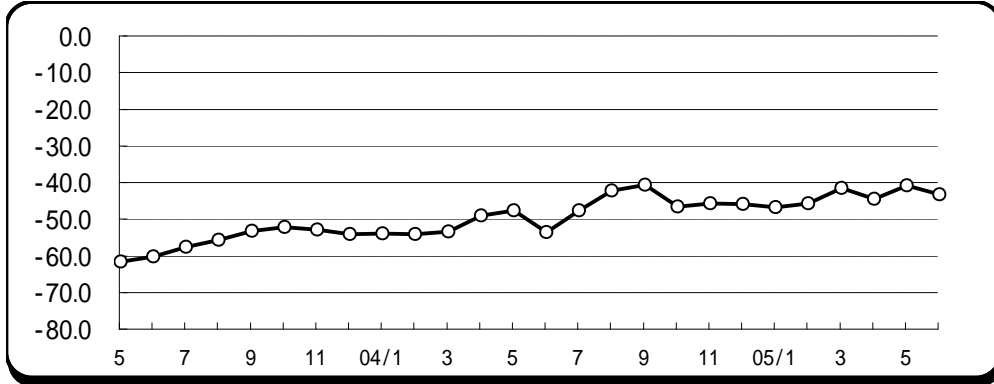
ブロック別の向こう3カ月(7月~9月)の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、東海は改善、中国で横ばいだが、他の7ブロックで悪化したため、全ブロック合計でも悪化している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

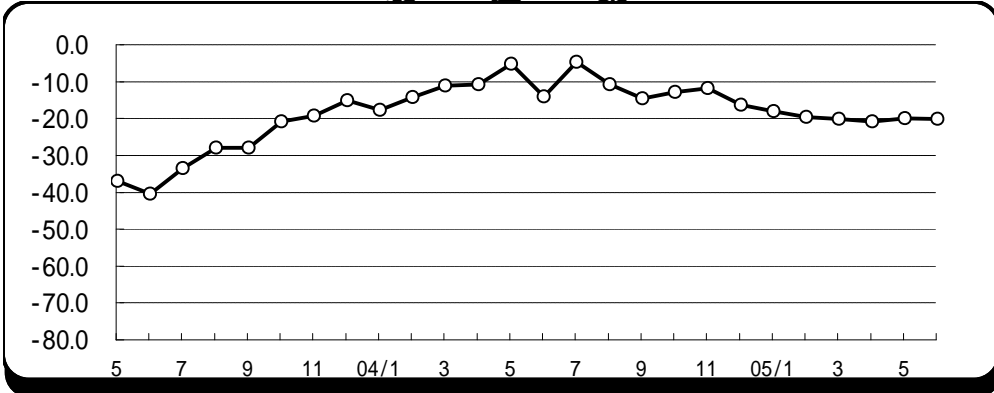
	17年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7~9月
全 国	34.2	36.5	33.4	35.3	30.9	33.2	28.1 (23.8)
北海道	37.1	30.8	27.9	35.7	36.4	32.4	32.4 (28.3)
東 北	44.0	40.8	38.3	42.9	37.7	32.7	33.5 (29.2)
北陸信越	26.1	35.9	39.5	28.2	27.6	36.9	25.7 (25.3)
関 東	30.7	32.4	29.4	36.0	32.8	33.8	24.9 (20.3)
東 海	29.0	25.1	25.9	29.7	20.1	26.1	26.1 (26.9)
近 畿	38.9	44.0	38.1	38.6	36.0	35.8	29.3 (24.9)
中 国	35.8	39.3	36.2	28.9	32.9	30.3	28.8 (28.8)
四 国	35.9	48.6	34.7	37.5	25.9	40.8	30.3 (21.0)
九 州	35.8	36.8	34.3	37.5	27.0	28.9	28.4 (16.4)

業況DI（前年同月比）の推移（全国）

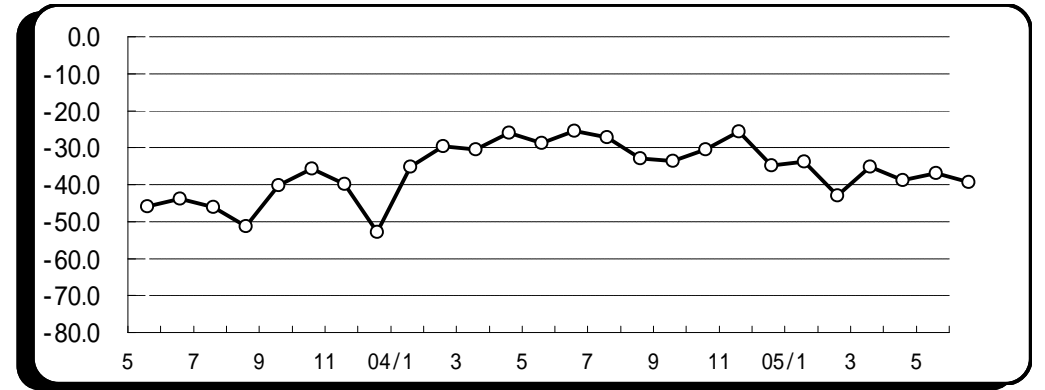
建設業



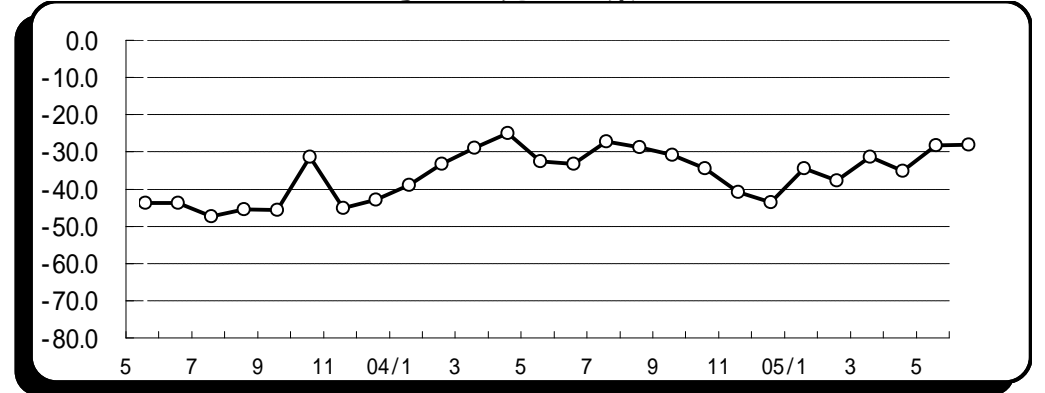
製造業



卸売業



小売業



サービス業

